

7月9日

テーマ：「聞かなければならないことば」

聖書箇所：エレミヤ書36章21節～32節

◆今日のみことば

王も、彼のすべての家来たちも、これらのすべてのことばを聞きながら、恐れようともせず、衣を裂こうとしなかった。  
エレミヤ書36章24節

◆メッセージ

自分の失敗や間違いを指摘することばは聞きたくないものです。お父さんやお母さんから叱られるのを、喜んで聞くことなど誰もできませんね。お父さんやお母さんのことば、どんな思いで聞いていますか。神さまのみことばはどうでしょう？



先生であるエレミヤさんから頼まれて、神さまのことばを巻物に記したバルクさんは、その内容を主の宮で人々に読んで聞かせました。このことは国中の話題となり、やがて王さまの耳にも入ります。王さまはその巻物を持ってこさせて家来に読ませました。しかし、それは王さまにとって聞きたくない内容でした。怒った王さまは巻物を切り刻んで、暖炉で焼いて

しまいました。けれど、どれだけ巻物を燃やしても、神さまのことばを消し去ることはできません。なぜなら神さまは永遠に生きておられるお方だからです。神さまは新しい巻物を書くようにエレミヤさんに命じられ、そしてもう一度バルクさんによって神さまのことばは書き記されたのです。

その巻物は、神さまからの忠告のことばでした。「ユダの国はバビロンの国によって滅ぼされる！」国が滅ぶなど、王さまにとってこれ以上に聞きたくないことばはありません。しかしそれは、ユダの人々が罪を認め、反省し、神さまご自身に立ち返るようにと願われた神さまの大切なことばでした。それは聞きたくないことばですが、しかし聞かなければならないことばでした。神さまのことばに耳をふさぎ、神さまのことばをなくそうとしたユダの国は、残念ながら滅ぼされてしまいました。みことばを聞いて、神さまに立ち返ればよかったのに！

神さまのことばは、時として聞きたくないかも知れません。けれど、どれだけ耳をふさぎ、巻物を燃やしたとしても、神のことばを無くすことはできません。ですから、わたしたちは、素直に神のことばに聞き従う者となりましょう。なぜなら、神さまの忠告のことばは、わたしたちを生かすためのものだからです。神さまはいつでもゆるされる準備をもって、わたしたちに忠告の言葉を与えるお方だからです。



◆お祈り

「神さまのことばに、すなおに聞いて従うことができるように、わたしをととのえてください。」

(いのちの樹教会牧師 小見靖彦)